

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-031	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Acute alcohol intoxication and suicide among United States ethnic/racial groups: findings from the national violent death reporting system. アメリカ合衆国の民族/人種における急性アルコール中毒と自殺：国家的な暴力による死亡を報告するシステムから得られた知見</p>		
執筆者		
Caetano R, Kaplan MS, Huguet N, McFarland BH, Conner K, Giesbrecht N, Nolte KB.		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2013 May;37(5):839-46. doi: 10.1111/acer.12038. Epub 2013 Feb 5.		
キーワード		PMID
急性アルコール中毒、自殺民族、人種		23384174
要 旨		
<p>目的： アメリカ合衆国の民族/人種における急性アルコール中毒と関係している自殺について発生率と社会人口統計学的な関連を明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法： 2003年から2009年のNational Violent Death Reporting Systemの情報を利用した。この研究は、社会人口統計学的、中毒に関する情報に焦点をあて、アメリカ16の州から報告された59,384人の男女の自殺者を対象に検討した。急性アルコール中毒の定義は、血中アルコール濃度0.08g/dlとした。アルコールは76%の対象者から検出された。</p> <p>結果： 血中アルコール濃度0.08g/dl以上の自殺者の割合は、最も高いアメリカ先住民(アメリカ及びアラスカ)の47%からアジア及び太平洋諸島出身者の23%までであった。平均血中アルコール濃度はアメリカ先住民で最も高かった。アルコール血中濃度を検査した対象者の中で、合法薬物の中毒者の割合は、黒人15%、アメリカ先住民36%、アジア・太平洋諸島系13%、ヒスパニック系28%であった。二変量分析では、合法的な薬物の中毒であった自殺者の大部分は男性で、30歳以下、高卒、非婚者、非熟練工で都市生活者であり、自殺の手段は銃の使用であった。しかし、白人は例外的であったが多変量解析後の結果は統計学的には有意ではなかった。</p> <p>結論： 自殺前の飲酒、合法的な薬物使用は30歳以下の男性において一般的であった。アメリカ先住民は血中アルコール濃度が最も高く、合法的な薬物中毒者の割合が多く、若者も多かった。自殺予防の戦略は、リスク因子として飲酒を対象にすべきであり、アルコール問題の予防は特に若者やアメリカ先住民の若年者について、飲酒からの自殺に焦点を当てるべきである。</p>		